

科目責任者 加賀谷 肇 (臨床薬剤学研究室)

■ 教育目的

がんの病態を把握し、その病態に応じたがん化学療法、緩和ケアに関する最新の知見を学び、がん化学療法、緩和ケアにおける薬剤師の役割を理解する。

■ 学習到達目標

1. がんの疫学、病因、病態について説明できる。
2. がん薬物療法（化学療法・緩和ケア）について概説できる。がん医療におけるチーム医療について説明できる。

■ 準備学習（予習・復習）

予習：教科書、参考書、配布プリントの該当部分に目を通しておく。

復習：講義内容を復習するとともに、関連事項について自分で調べてみる。

■ 授業内容

No.	項目	授業内容	SBOコード
1	悪性腫瘍総論	がん生物学、がん薬物療法総論	C14 (1) -2-8、(5) -7-1 ～2、-8-1～8-9-1～3
2	悪性腫瘍 1	胃がんの疫学、病態、病期と治療選択と予後	C14 (5) -7-1～3-9-2 ～3
3	悪性腫瘍 2	大腸がんの疫学、病態、病期と治療選択と予後	C14 (5) -7-1～3-9-2 ～3
4	悪性腫瘍 3	乳がんの疫学、病態、病期と治療選択と予後	C14 (5) -7-1～3-9-2 ～3
5	悪性腫瘍 4	悪性リンパ腫の疫学、病態、病期と治療選択と予後	C14 (5) -7-1～3 -9-2～3
6	悪性腫瘍 5	肺がんの疫学、病態、病期と治療選択と予後	C14 (5) -7-1～3-9-2 ～3
7	悪性腫瘍 6	頭頸部がんの疫学、病態、病期と治療選択と予後	C14 (5) -7-1～3-9-2 ～3
8	がん医療と薬剤師	がん薬物療法における薬剤師の役割	C14 (5) -7-1～3-9-2 ～3
9	緩和ケア 1	がん疼痛の分類・機序、痛みの評価 緩和ケアの基本的知識・技能・態度とは	C14 (4) -8-1
10	緩和ケア 2	WHO方式がん疼痛治療法の実際	C14 (4) -8-1
11	緩和ケア 3	オピオイド鎮痛薬（薬理学的特徴）	C14 (4) -8-1 C13 (1) -2-1
12	緩和ケア 4	オピオイド鎮痛薬（薬物動態学的特徴）	C14 (4) -8-1 C13 (1) -2-1
13	緩和ケア 5	緩和ケアにおける症状管理、オピオイドの副作用とその 対策	C14 (4) -8-1 C13 (1) -3-1
14	緩和ケア 6	鎮痛補助薬、薬物療法以外の疼痛治療法	C14 (4) -8-1
15	緩和ケア 7	緩和ケアチームの実際、患者・家族の教育	C14 (4) -8-1 C13 (1) -3-1

■ 授業分担者

No.1～5、8：遠藤 一司、 No.6、7：鈴木 俊宏、 No.9、10、13～15：加賀谷 肇、 No.11：野澤 玲子、
No.12：植沢 芳広

■ 成績評価方法

試験（80％）、および出席状況・授業態度（20％）で総合評価を行う。

■ 教科書

講義プリント

『緩和医療薬学』 日本緩和医療薬学会 編集（南江堂）

■ 参考書

- 『がん診療レジデントマニュアル』 国立がん研究センター内科レジデント 編 (医学書院)
- 『がん化学療法レジメンハンドブック』 遠藤 一司 編集 (羊土社)
- 『制吐剤適正使用ガイドライン』 日本癌治療学会 編 (金原出版)
- 『胃癌、大腸がん、乳がんなどの診療ガイドライン』 各学会 編 (金原出版)
- 『がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2010 年版』 日本緩和医療学会 編集 (金原出版)
- 『緩和医療の基本的知識と作法』 門田和気、有賀悦子 編集 (メジカルビュー社)